

主要行等の令和 5 年 3 月期決算の概要

1. 損益の状況（グループ連結ベース）

- 令和 5 年 3 月期は、米国等の金利上昇に伴い外債を中心に債券等関係損益が悪化した一方で、投資信託解約益の増加や貸出金残高の増加、為替影響等により資金利益が増加したこと等を主因に、当期純利益は前期比 6.6%の増益。

（単位：億円）

	R3 年 3 月期	R4 年 3 月期	R5 年 3 月期	前期比
業務粗利益	105,642	108,328	115,933	7,605
資金利益	49,618	54,392	63,039	8,646
役務取引等利益	35,266	39,182	40,824	1,642
その他業務利益	8,254	4,722	202	▲ 4,519
うち債券等関係損益*	1,887	▲ 3,123	▲ 11,893	▲ 8,770
経費	▲ 68,739	▲ 70,260	▲ 73,850	▲ 3,590
業務純益	37,638	38,630	42,776	4,146
コア業務純益*	19,947	26,165	38,077	11,911
コア業務純益*（除く投資信託解約損益）	19,692	25,232	31,742	6,510
与信関係費用**	▲ 11,789	▲ 9,761	▲ 10,244	▲ 483
株式等関係損益	2,407	5,101	5,973	872
親会社株主に帰属する当期純利益	21,016	27,023	28,807	1,784

*債券等関係損益、コア業務純益については銀行単体ベース。**与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

（参考）	R3 年 3 月末	R4 年 3 月末	R5 年 3 月末
貸出金（末残）***	319.1 兆円	328.0 兆円	349.6 兆円

***貸出金は銀行単体ベースの銀行勘定計。

2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権残高は令和 4 年 3 月末に比べ減少、不良債権比率は低下。

	R3 年 3 月末	R4 年 3 月末	R5 年 3 月末
不良債権残高	2.6 兆円	3.4 兆円	3.2 兆円
不良債権比率	0.75%	0.92%	0.81%

3. 自己資本比率の状況（グループ連結ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率、Tier1 比率、普通株式等 Tier1 比率は、令和 4 年 3 月末に比べ低下。

- 国内基準行の自己資本比率は、令和 4 年 3 月末に比べ低下。

（国際統一基準行：4 グループ）

（国内基準行：3 グループ）

	R4 年 3 月末	R5 年 3 月末
総自己資本比率	15.72%	14.92%
Tier1 比率	13.87%	13.25%
普通株式等 Tier1 比率	12.35%	11.87%

	R4 年 3 月末	R5 年 3 月末
自己資本比率	11.56%	11.34%

（注1）記載金額・比率は、四捨五入して表示。

（注2）グループ連結ベースは、みずほFG、三菱UFJFG、三井住友FG、三井住友トラストHD（以上、国際統一基準行）、りそなHD、SBI新生銀行、あおぞら銀行（以上、国内基準行）を対象とする。

（注3）銀行単体ベースは、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ信託銀行、三井住友信託銀行、SBI新生銀行、あおぞら銀行を対象とする。

（注4）各グループ公表資料等より、金融庁作成（公表数値の定義はグループにより異なる場合がある）。